

わたしの美しい森 フォトコンテスト



2019年度「わたしの美しい森フォトコンテスト」の
 入選作品の一部をご紹介します。
 (表彰式の様子等につきましては先月号をご覧ください)

林野庁長官賞

作品名 悠久の時を経て

撮影者：居原田晃嘉

部門名：景観部門

撮影地：京都府京都市 糺ただすの森 (下鴨神社)

居原田氏のコメント

この作品は、京都の三大祭りの一つで、毎年5月15日に執り行われる『葵祭』の『路頭の儀』の行列が下鴨神社の参道を進む姿を、糺の森の新緑の木々と合わせて撮影したものです。

古の「糺の森」と平安時代から続く「葵祭」そして「路頭の儀」の行列の中から牛車を被写体を選ぶことで、「悠久の時を経て」という作品名を表現しました。

写真家、福田幸広氏の講評

日本的な美しい時間をとらえた写真だと思えます。京都市内という身近な場所であっても、太古から引き継がれた森からは遠く離れた深山の森に勝るパワーを感じます。まさに「わたしの美しい森」というコンテストのテーマにぴったりの写真だと思えます。

写真家、米美知子氏の講評

深い森の中で行われる厳かな神事の様子が伝わってくる作品です。緑溢れる梢からは鳥たちのハラスりも聞こえてきそうですね。少し引き気味に撮ったことで、豊かな自然の調和が見事に表現されています。

糺の森について

「糺の森」は、縄文時代より京都の下鴨神社に自生する、エノキ、ムクノキ、ケヤキ等の広葉樹を中心とした社叢林しゃそうりんです。下鴨神社と共に「世界文化遺産」にも登録されています。四季折々の美しさと人の心をとりこむやまな名所があります。

引用・参考：糺の森財団HP
<https://tadasunomori.or.jp/about/>



下鴨神社(賀茂御祖神社)へのアクセス

京阪出町 柳駅から徒歩12分
 (出典・詳細：下鴨神社HP
<https://www.shimogamo-jinja.or.jp/>)



※社叢林とは、神社の神殿や参道等を囲む森林をいいます。



審査員特別賞

作品名

槍望むライチヨウ

撮影者…加納 顕悟

部門名…生命部門

撮影地…長野県安曇野市 燕岳

加納氏のコメント

大学から始めた登山により山の魅力に魅せられ、この感動を残しておきたいとカメラを始めました。この作品は、登山日和となった天気の中、燕岳を登り切ったところ、長年の夢だったライチヨウとの対面を果たした際に撮影したものです。感動のあまり写真撮影に夢中になり、仲間との登頂記念写真には入りそびれてしまいました。

福田幸広氏の講評

素晴らしい出会いだと思います。美しい山並みと抜けるような空の下でライチヨウの親子が散歩中なのですから。私も同じ場所にいたら大興奮で撮影していたに違いありません。画面左には湧き立つ霧をわずかに写しこんだのも高山を想像させてくれます。作者の冷静な撮影姿勢が想像できる秀逸な写真だと思います。

燕岳について

燕岳は、北アルプスの山々の中でも、難所の少ない初心者向けの登山コースが存在する北アルプスの入門として人気の山です。花崗岩の白色とハイマツの緑色が鮮やかに映え、「高山植物の女王」と呼ばれるコマクサや特別天然記念物のライチヨウが生息しています。

登山口へのアクセス

【車】

長野自動車道安曇野ICから登山口駐車場(約80分)

【電車とバス・タクシー】

松本駅から穂高駅(約30分)
穂高駅から燕岳登山口(定期バスで約55分、タクシーで約45分)

(出典・詳細: 燕山荘HP)

<https://www.enzan-so.co.jp/>





審査員特別賞

作品名

しげみの中で カフェオレ見つけた

撮影者：長谷川裕一

部門名：景観部門

撮影地：長崎県佐世保市

五蔵池

長谷川氏のコメント

通常であれば池の水は、水中に沈んだ木の幹も見えるほど透き通り、幻想的な風景が広がるのですが、五蔵岳森林公園を訪れた際には、水の濁りのとても強い五蔵池が出現していました。しかし、その濁りのおかげで、水面に反射する木々の姿がとても鮮明に映し出されていたため、時間をかけて様々なアングルから撮った写真の中から選び出した一枚がこの写真です。

米美知子氏の講評

大雨の後に出現する五蔵池の神秘的な姿を独自のアングルで捉えているのがいいですね。奥のアキニレの群生だけを狙った作品が多い中、あえて手前の木々を入れることで密林感が出ています。



五蔵岳森林公園について

アキニレの群生地として知られています。五蔵池は、大雨が降り続いた後や梅雨の時期にのみ、アキニレの群生地の中に出現することから、地元の人でも目にするのが難しい「幻の池」と呼ばれています。

五蔵岳森林公園へのアクセス

「電車とバス」

佐世保駅前から石尾まで西肥バスで約40分、下車後徒歩約2km

(出典・詳細：佐世保市HP)

<https://www.city.sasebo.lg.jp/kankyo/kansei/documents/taikamap-all.pdf>

<https://www.city.sasebo.lg.jp/kankyo/kansei/documents/taikamap-all.pdf>

pdf)



作品名 霧の白樺林

撮影者：星野 郁男

部門名：景観部門

撮影地：長野県佐久穂町 八千穂高原



星野氏は高原に咲くレンゲツツジと白樺林の美しい風景に魅せられ、写真仲間と毎年のように八千穂高原を訪れているそうです。星野氏からは「毎回天気恵まれたのできれいな風景としての写真は撮れているものの、このスケールの大きな自然を幻想的に撮りたいという想いで雨の降る午後に出たところ、高原に着いた時には雨もほとんど上がり、予想以上の霧の世界に出合うことができました。」とのコメントを頂きました。



八千穂高原自然園へのアクセス

【電車とバス】JR小海線八千穂駅からバスで約40分（八千穂高原自然園下車）

【車】八千穂高原ICから車で約20分

（出典・詳細：長野県公式観光サイトHP

https://www.go-nagano.net/topics_detail6/id=3752



作品名 秋を装う三方岩岳

撮影者：西山 宏

部門名：景観部門

撮影地：石川県白山市 ぶくべ谷登山道



この作品は、10月上旬に撮影したもので、西山氏が訪れた日は、登山道が2日前に開通したばかりで登山者も多かったのですが、紅葉に包まれたこの景色を見た瞬間に圧倒され、登山者が行き来する合間を見計らってシャッターを切ったそうです。

西山氏からは、「撮影場所は標高1,500mを超えますが、石川県と岐阜県を結ぶ白山白川郷ホワイトロードの駐車場から約30分と、標高の割には手軽にたどり着ける場所ですので、ぜひ多くの方に、直接この景色を楽しんでいただければと思います。」とのコメントを頂きました。

梅の木台駐車場（ぶくべ谷登山道の起点）へのアクセス

【車】白山ICから車で約100分（一般道：約70分、白山白川郷ホワイトロード：約30分）、白川郷ICから車で約40分（一般道：約10分、白山白川郷ホワイトロード：約30分）

※白山白川郷ホワイトロード（有料）開通期間：6月上旬～11月上旬

（出典・詳細：白山白川郷ホワイトロード（旧白山スーパー林道）公式ページ <http://hs-whiteroad.jp/access-price/>）



協賛企業特別賞・株式会社内田洋行賞

作品名

磨丸太 みがまるた

撮影者：南真次

部門名：景観部門

撮影地：和歌山県古座川町 こさがわ



この作品は、南氏が床柱等に用いる磨丸太を作るため32年前に約8千本の杉の苗木を植栽し、植栽後2年目から下刈、5年目からは数年間隔で枝打を繰り返し、出材できる大きさまで育て上げた森を撮影したものです。

南氏からは、「丹精込めて育てた杉を、自分で撮影した写真が賞をいただくことになり、これ以上の喜びはありません。」とのコメントを頂きました。



古座川町へのアクセス

【電車とタクシー】JR紀勢本線(きのくに線)古座駅下車後タクシーで約15分

【車】大阪から約210分、名古屋から約245分

(出典・詳細：古座川町HP)

<http://www.town.kozagawa.wakayama.jp/kankou/>



景観部門優秀賞・全国森林レクリエーション協会会長賞

作品名

冬への懸橋 ふゆへのかけはし

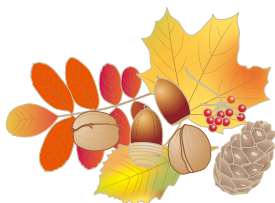
撮影者：巖右正克 いわまたたく

撮影地：岩手県八幡平市赤川山国有林 はちまんたい



この作品は、10月末の晩秋に十和田八幡平国立公園にある赤川山国有林で撮影されたものです。この場所に普段から出かける巖右氏が、空に架かることが多い虹が山に架かる風景に出合い、魅了され、シャッターを切ったそうです。

巖右氏からは「この度は入選することができ大変嬉しく思っております。」とのコメントを頂きました。



十和田八幡平国立公園(八幡平地域)へのアクセス

【電車とバス】盛岡駅から岩手県北バスで約110分、八幡平頂上バス停下車

※12月～4月は運休

(出典・詳細：環境省HP)

<https://www.env.go.jp/park/towada/access/index.html>



作品名 **ブナ林の根開き**

撮影者：白山健悦

撮影地：青森県十和田市南八甲田



この作品は、広角レンズのカメラを地面に置き、そのカメラをスマートフォンでコントロールしながら撮影したものです。白山氏の作品は前回コンテストで東北森林管理局長賞に輝いており、今回2回目の受賞となりました。

白山氏からは、「地面から見たブナの根開きは面白そうという発想からこの撮影方法が生まれました。賞をいただきとても感激しております。」とのコメントを頂きました。



十和田市へのアクセス

【電車とバス】JR八戸駅から十和田観光電鉄(株)バスで約70分

【車】第一みちのく有料道路・百石道路「下田百石」から約30分

(出典・詳細：十和田市EPA)

<http://www.city.towada.lg.jp/docs/2012051700011/>



作品名 **運べ！一直線！！**

撮影者：原田健治

撮影地：愛知県（オオタカ保護の観点から詳しい撮影地は載せていません。）



原田氏は、オオタカが巣作りを始める3月から、交尾、子育てを経て、巣立ちをする6月まで、その様子を毎年同じ森で観察してきたそうです。親鳥は子育て中も巣の補強やフンで汚れた巣を清潔に保つため、枝を折ってはヒナのために運ぶそうです。この作品はその枝運びを撮影したとのことでした。

原田氏からは「テレビや映画でしか見られないような生き物の営みを、写真を通して見ることができ、写真をやっていると本当に良かったなと感じています。」とのコメントを頂きました。



生活部門優秀賞・国土緑化推進機構理事長賞

作品名 **ちいさな大冒険**

撮影者：中村知子

撮影地：山梨県甲斐市



この作品は、中村氏のお子様が無気味な森で遊びまわっている姿を撮影したものです。森の中の中村氏ご家族を写した作品は、前回コンテストでも体験部門優秀賞に輝いており、今回2回目の受賞となりました。

中村氏からは「虫が大好きな息子が森の中で大冒険しています。山梨にはまだまだ豊かな自然が残っていますが、息子が大人になったときも、この森が残っていることを願っています。」とのコメントを頂きました。

甲斐市へのアクセス

【電車】甲府駅からJR中央本線で塩崎駅まで約5分

【車】中央自動車道双葉SAスマートICから約10分で韮崎IC、約5分で甲府昭和IC

【出典・詳細】：甲斐市HP

https://www.city.kai.yamanashi.jp/kanko_bunka_sports/kanko_event/kanko_eventjoho/3961.html



2月25日(火)～28日(金)の4日間、農林水産省1階「消費者の部屋」で入賞作品の紹介をしました。今回の企画では、当フォトコンテストの協賛企業「ミレー・マウンテン・グループ・ジャパン株式会社」にも協賛いただき、森で楽しく快適に過ごすための最新アウトドアアイテムの紹介も行われました。

来場いただいた方々がそれぞれのお気に入りの森とアイテムを見つけていただき、大切な仲間と森に行っていたければ、と願っております。

